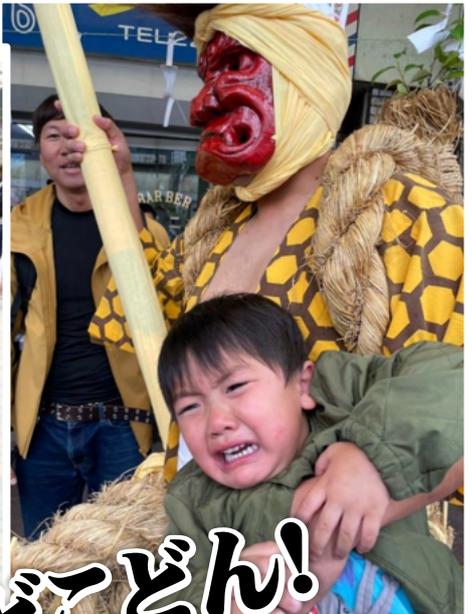


やんちき通信 245号



10月20日現在
 子ども会員:127人
 正会員:40人
 賛助会員:243人
 27団体



しりたがり	02
おとな塾	03
子育て支援～これからの20年～	04
鑑賞部	05
連載小説	06
ティーンズ+	07
Harbor Salon	08

やまもと かずこの 知りたがりやトーク

カープ CS ファイナルステージ進出おめでとう！の瞬間、我々YYY 首脳陣はお江戸に滞在。YYY 初の研修？旅行を終え、そろそろ家路につこうかという頃でした。帰りの新幹線で、熱烈なカープファンの知人におめでとうの LINE を送りながらも、頭の中では夢のような2日間を追想。毎度のことながら、旅の終わりに思うのは、家に帰れる嬉しさと非日常を手放しちゃうというせつなさ。それから、次はどこに行こうか？という野望。(笑)

今回の研修旅行、主たる目的は K-BALLET TOKYO の公演、「眠りの森の美女=The Sleeping Beauty」を鑑賞すること。それは、とある朝のこと、いつものように連ドラからの、あさイチを見ていたら、その日のゲストは熊川哲也氏。以前、RCC の知人から「YYY、K バレエやらん？」と声をかけていただいてから、注目しているアーティストの一人。いつもなら、つけっぱなしになってるだけの TV、ついつい真剣に見入ってしまう。話題は自身が芸術監督を務める K-BALLET TOKYO の創設 25 周年を機に新たに制作した「眠れる森の美女」。そもそも「眠れる……」は魔女に呪いをかけられ、森の奥で

眠り続けたオーロラ姫を王子が救う、ディズニー映画でもおなじみの物語。バレエでは 1890 年、ロシア・サンクトペテルブルクで初演されたバージョンが定番となっているのだとか。それに対し「物語と



して矛盾だらけで、面白くない。つままないけど、そんなこと言っちゃいけない。バレエはこうあらねば、みたいな先入観にとらわれ、我慢して見ている人も結構いるんじゃないかな。だから僕がスケープゴートになっても(笑)、いつか手をつけなきゃと思いつけてきた。僕自身も、バレエという芸術に飽きてしまわないように」と熊川氏。自ら台本、演出、振り付けの全てを手掛け、「衣装・舞台美術、照明、オーケストラそしてそれに合わせて踊るダンサー…バレエは総合芸術！」と子どものように目をキラキラさせながら、熱く語るカッコいい彼の姿をみたら、誰だって観に行きたい！って思うよね。

事務所に行って、開口一番「K-BALLET いこうや！」と言ってみたら、「観た？」「観た観た！」と大盛り上がり。ダメもとで、チケットが手に入るか検索してもらったところ、奇跡的に 4 枚ゲット。きっと 20 年頑張ってきたことへの神様からのご褒美だ！って勝手に思うことに。ありがとう神様！ってことで、YYY 初の研修旅行が実現。

初めてのホール、ワクワクしながら開場を待つ。席は 2 階の前から 3 列目、舞台に向かってやや右より、舞台もオケもよく見えて、めっちゃ満足。公演はもちろん、あさイチで聞いた話から想像していた通りに素晴らしく、終わるころには、手の平が真っ赤に。絢爛豪華な衣装に舞台セット、小気味よいオケの調べにレベルの高いダンサーの踊り、すべてが本当に美しい。時間の経過とともにその美の世界にどんどん引き込まれていく、何とも言えない夢のような世界。あっという間の 2 時間 40 分、終わって欲しくない！鳴りやまないカーテンコール。当日の感動を、そのまま表現する文才がないことがとても残念ですが、百聞は一見にしかず。本物を生で観るしかない！なので、呉公演をぜひやりたい！呉の皆さんと一緒にもう一度出会いたい！



未来の呉市を見据えた投資

子どもの学びの環境づくり

～教育委員会のお・し・ご・と～

不登校等児童生徒への支援について

新型コロナの脅威が薄れつつあるこの頃ですが、その爪痕が色濃く残る部分もあります。それは、不登校の児童生徒の急増。全国では約30万人と過去最多に達し、呉市でも昨年度は451人とコロナ禍以前に比べて2倍以上になっています。

この課題に対し、文部科学省は不登校への支援を調査して平成28年に教育の機会を確保する法律を公布。支援のあり方が見直され、現在では「COCOLOプラン～誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策～」が取りまとめられるに至りました。これは、それぞれに合った形で学びの場・環境を確保するというものです。さらに、端末を活用し相談しやすい環境をつくる、学校の風土を

外からも見やすくするツールを整理するといったことも進められています。

呉市でもこれを受けて多様な学び方が選択できるようになっています！具体的には、呉市に3か所ある適応指導教室(つばき学級)、オンラインでも学びを提供するSCHOOL“S”、学校らしく見えない教室でリラックスしながらの学びを提供するスペシャルサポートルーム(SSR)、学校外で対面での学びを提供するフリースクール、オンラインでの授業参加などがあります。驚いたのは、調理会、校外学習、オンラインの修学旅行の実施など、教科以外の学びも充実していること。他にも、異学年でのコミュニケーションの機会があったり、先生の中でも支援会議が行われたりしているようでした。「不登校はさぼり、登校が正義」という考え方はもう古い！

学校は行くことが目的ではなく学ぶことが目的。学びの権利を全員に保障する、自立を支援するという重要な視点を学びました！ (芥川愛花里)

〇×クイズで始まったおとな塾は、スライドに写された表にもあそびがたっぷり！授業のように楽しめる構成で集中して聞けました！

質疑の時間が取れなかったので、ふり返し会を実施します！

11/1(水)19:30～YYY事務所です！ぜひ！

Nextおとな塾

秋の夜長はしっとりと…

ヴァイオリンとフルーツの夕べ

講師：宮本尚代さん(ヴァイオリン)

中元裕子さん(フルーツ)



【日時】11月15日(水)19:30～

【場所】生涯学習センター607

【参加費】1200円

※事前にお申込みください。



子育て支援～これからの20年を考える～

11月20日は世界こどもの日！YYYは昨年20年を迎えましたが、来年は

- ・ジュネーブ宣言から100周年
- ・国連が児童に関する子どもの権利条約を採択して35年
- ・日本が批准して30年

というアニバーサリーな年なのです。今月は元人権センターの狩山満香さんをお迎えして、まさにこの日取り下げと報道された、「留守番禁止」で炎上していた虐待禁止条例の改正案(埼玉)を皮切りに、子どもの権利を取り巻く状況についてざっくばらんに話しました。



埼玉の

虐待禁止条例改正案とは



埼玉県議会の最大会派、埼玉県議会自由民主党議員団(自民)が10月4日に議員発案の条例の改正案として提出したものの、子どもが巻き込まれる悲惨な事件が相次いでいることを懸念して作られたものだという。

小学校3年生以下の児童を「子どもだけで公園で遊ばせる」「子どもだけで留守番させる」「18歳以下のきょうだいに預けて買い物に行く」などが禁止とされ、生活実態とかけ離れていると大きな話題になりました。10月13日、正式に取り下げ。

もし呉でこういうことになったらどうする？から始まった会。登下校すら子どもだけでできなくなる条例に、「埼玉から脱出しよう」という声もあがっているとか。こういう条例を作りたい人は何を考えとるんじゃろ？うーん。

「子どもを守りたい」「事件に巻き込まれないようにしたい」と推理した参加者。それは、事件を起こす側ではなく、巻き込まれる側にか自衛してほしいという方向性の動きです。「事件に巻き込まれるのは親の責任」って言われているみたい。

では親の責任って？お金？教育？自由？高校家庭科の教科書には「子どもの命を守り、年齢や個性、成長・発達に応じて保育し、やがてはひとりの社会人として自立できるように育て上げる(一部抜粋)」との記述が。「子どもに幸せになってほしいと願い続けること、じゃないかと思うんよ！」との声はとても自分の中に落ちました。そうか、毎日働くのも教育資金に策を練るのも不登校に頭を悩ませるのも幸せになってほしいと願い続ける行動ってわけ！

子ども NPO を長年やっている我々として気になったのは「子どもに聞いて決めたんかね？」ということ。子どもを守るのは親だけではありません。社

会には色んな大人がいます。子どもの「育ち」を保障するというのを考えるとき、地域によって事情が違うという意見が出ましたが、生まれるところによって生じる格差が最大の課題とも言えます。こんなことより、どこに生まれようとも色んな事が享受できるような条例を作ってくれよ～。もしかして埼玉を題材にした映画の番宣だったんかね？(笑)

全国的に盛り上がったこの件を機に、子どもの「育ち」を保障する社会を創ることについて各地で議論が活発になるといいなと思います。一時の炎上にせず、日々、考え続ける大人が増えることが、そんな社会の実現への第一歩と考えます。(まゆまゆ)



YYY 会場づくりへのこだわり

「今回の会場はどうする？」12月公演のストリングラフィは、水嶋一江さんが森の中で考案したという。木々に絹糸を張り巡らせ紙コップで音を響かせた……つまりテーマは『森』。「そりゃあ森のイメージじゃけん、森をつくろうや！」

12月とくれば、クリスマス・イルミ・忘年会(笑)。「段パネを三角すいにしてツリーに？大小様々なツリーをいっぱい飾ってみてはどう？」「木と木の間に電飾はって、ストリングラフィぼくして…文字を飾ってみる？」などなど。話すだけではイメージがなかなか湧かない。デザイン画を描いたり、ミニチュア模型を作ってみたり…毎日、考え、手を動かし盛り上がっています。



“足を踏み入れた瞬間から作品の世界へ入り込んでもらいたい”



YYYの舞台鑑賞では、会場づくりに毎回力を入れています。これまで9回公演した「ザ・ニューズペーパー」では、大きな箱からニュースが飛び出してくるオブジェを作ったり、国会をイメージして国会議事堂や、中央階段の議員集合写真をエントランスに出現させたり…。その都度、変わっていることに気づいてもらっていました？人形劇「ともだちや」では被り物を作りフォトスポットを設置。「Rue de Valse」ではパリのカフェ、「ジキジキ」は寄席をイメージ。また市内の高校生ともコラボして、「野村萬斎」公演では書道部を訪問し、題字や演目を製作してもらったり、「神保彰 ワンマンオーケストラ」では吹奏楽部5校から集めた『音楽へのラブレター』を展示。どの公演も、どうやって楽しんでいただくか、悩んで、試行錯誤した末のもの。とても思い入れがあります。公演当日に記念撮影してくださっている姿を見ると、それまでの苦勞が報われた気がして、本当に嬉しくなります。



事前準備から当日まで、たくさんの方の力を借りて、楽しみながら進めています。(鑑賞部)

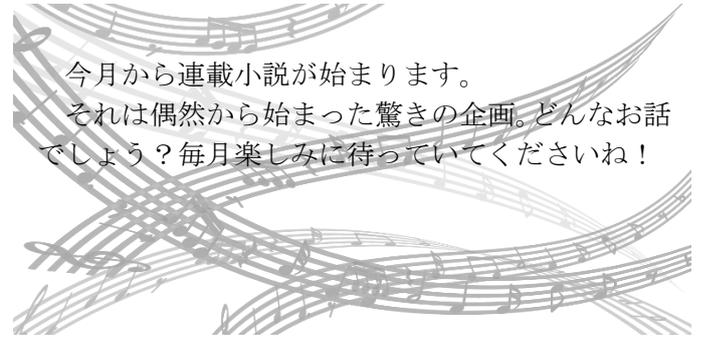


さて今回は、一体どんな『森』が出来上がっているのか！？当日来てのお楽しみ 

誰のための演奏会

二神リュウ

今月から連載小説が始まります。
それは偶然から始まった驚きの企画。どんなお話
でしょう？毎月楽しみに待っていてくださいね！



私——椿には目標も、好きなことも無い。一言でいうなら、空っぽ。でも、今日からは違った。

通っている中学校からの帰りのこと。帰り道にある川岸の公園からバイオリンの音色が聴こえてきた。

気になって行ってみると、七十くらいのおじいさんが緑色の桜の木の前にあるベンチに座ってバイオリンを弾いていた。

その演奏はひどいものだった。頻繁に音程がずれ、たまに羽虫の悲鳴のような音がする。近くにいた人はその音から逃げるように足早に離れていった。

だけど私はおじいさんの演奏を聴き続けた。なぜか、聴かずにはいられなかった。

演奏が一区切りついたらしく、おじいさんはバイオリンをおろした。そして私に気づくと、優しい顔で話しかけてきた。

「おや、お客さんとはめずらしい」
私は軽くおじぎをした。

「ひどいもんだらう？ 昔からやっているのに向に上手くならないんだ」

苦笑するおじいさん。

「昔はこれで生きていきたいと思っていた時期もあったけど、結局は泣く泣くあきらめてね」

「では、なんで弾いているんです？」

私の質問に、おじいさんはバイオリンを見つめながら小さく、

「好きだから……かな？」

私がおじいさんの隣に腰掛けると、彼は話を続けた。

「上手く弾けなくても、好きなものはどこまでも好きだからね。妻も、バイオリンを弾いている時の私が好きだと言ってくれた。そこで決めたんだ。誰に見られなくてもいい。好きなことをして生きよう、とね」

おじいさんは公園を見回した。

「ここは、昔から練習場所です。ここは演奏する、普段よりも気分よく演奏できる」

話してくれるおじいさんの表情はまるで子供のよう。でもその表情はとも輝いて見えた。

私は、私の中で何かが動くのを感じた。

「また、聴きに来てもいいですか？」

この時、まさか自分の口からこのような言葉がでるなんて思わなかった。

おじいさんは一瞬驚いていたけどすぐに微笑んで、

「いいよ。いつでもおいで」

それからというものの、私はほぼ毎日、おじいさんの演奏会へと足を運んだ。

演奏は初めて聴いた時から相変わらず。それでも彼の演奏は、私にとってはとても暖かく、そして優しくかった。何よりおじいさん自身がとても楽しそうに、見ている私も楽しくなった。そんな演奏ができる彼が、私にはとても羨ましくて



画：あい

……。
数日後、演奏会から帰ると私は両親に告げた。
「私、バイオリンをやりたい」

ティーンズplus 合宿で得たものを手にイギリスへ...!

どうもみなさん、こんにちは！ ハーバーサロンの美月です！

長～い大学の夏休みが終わり、私は今、日本を飛び出して、なんとイギリスにきています！！が、この話はまた今度！今日はこの夏休みにあった部活(マンドリン部)の合宿についてお話しします。

マンドリンとは、イタリアの弦楽器で、ギターのように弾くのですが、しずくのようなかわいらしい形をしています。音にも特徴があって魅力的なので、ぜひ YouTube などでも聞いてみてください！

今年は感染症対策で制限されていた多くのことができるようになり、11月には恒例の定期演奏会も開催されます。その定演に向けて、私たちは大学内にある宿泊施設で2泊3日の合宿生活をしながら猛練習に励みました。一日にこんなに長時間楽器を弾くことはない！というくらいの練習量で、最終日は疲労困憊(笑)。でも、みんなでカレーを作ったり、UNO をしたり、夜中にアイスを食べたりと、楽しい思い出もたくさんできました。

この合宿を通して嬉しかったのは、合奏する度に



上手になっていると実感できたこと、先輩や後輩の人柄を知ることができたことで、演奏会に向けて、一体感も生まれてきたように思います。

しかし、私は留学に行くため、残念ながら演奏会には出られません。その分、みんなに頑張ってもらえるようエールを送らなきゃあって思っていたところ、逆に後輩たちから手紙や手土産(お菓子やみそ汁)などの饞別をもらい、イギリスをしっかりと見てくるぞ！と身の引き締まる思いでした。

他にも、2泊3日の福岡旅行や留学生の友達と呉観光をしたり、ゼミのみんなでお酒を飲みに行ったり、光栄にも、WBSC 女子野球ワールドカップにボランティアとして参加させていただいたり、毎日が充実した夏休みでした。

イギリスでの滞在中の3か月間は、「なるべく多くの人と関わる」ことを意識しながら、何事にも積極的にアプローチして有意義に過ごしたいと思います。
(美月)



第14回 Harbor Salon



Afternoon Share Party

皆さんは“〇〇の秋”と言えば、何を想像しますか？私はもっぱら食と読書の秋に偏っています。

さて、第14回の Harbor Salon は文化の秋ということで、Afternoon Share Party を開催。皆でおススメをシェア！学生、社会人、幅広い年齢の人たちが集まって、本や漫画はもちろんのこと、バンドやアニメ、ドラマ…と自分のおススメを思い思いに紹介し合いました。中には、わざわざコスプレして来てくれた人も。途中で、ちょっと脱線して、似た古典の話になったり、その作品が好きならこの作品も好きかも！なんて、他の人も自由に発言できる雰囲気。どっちがおすすめてるんだろうという場面もあり(笑)

岡本太郎のエッセイ『芸術と青春』の中にある実の父の最期の姿を描いたエピソードから太宰治の『地獄変』、そこから『宇治拾遺物語』の『絵仏師良秀の段』まで話が広がった時には、一人で本を読むだけではここまで連想ゲームのように話を展開させることはなかつただろうなと思いました。



企画の中盤、大いに話し、喉も乾いてきたところで登場したのは、おやつ！ボウルの中央に置いた炭酸飲料からソーダが噴き出す“噴水フルーツポンチ”です。お手本にした動画のようになるのか内心ドキドキ。事務所に居合わせたキッズたちに噴水の起爆剤となるお菓子をボトルに入れるお手伝いをしてもらい、サイダーが噴き出した時にみんなが盛り上がりすぎてくれてホットしました。

今回の企画の中で、これまで知らなかったことや作品たちを知れたことはもちろん楽しかったのですが、一番印象に残っていることは参加してくれた皆さんがとても楽しそうに自分のおススメについて話している姿。私自身も、自分の好きなものを、人と共有できたことが嬉しかったです。

今回の Harbor Salon はイギリスに留学中の美月ちゃんと中継をつないで実際に現地で生活してみでの感想などをレポートしてもらいます。ぜひご参加ください！ (なつ)

情報はここから
ゲット！→



■発行日：2023年10月25日(毎月1回発行) ■発行責任者：米本美千恵

■発行元：特定非営利活動法人 呉こどもNPOセンターYYY 〒737-0051 呉市中央3丁目 11-12PANビル3F

■連絡：0823-24-5646 ■WEB：<http://kure-yyy.org>